



# 光栄の森

2020年1月 毎月1日発行 第137号  
発行者 光栄プロテック 中川

## 1月に向けて

代表取締役 三田雅憲

今年も残すところ数日となりました。今期を振り返りますと仕事に関しては、おかげさまでいろいろな仕事が入りましたが、同時にお客様に納期や不具合等で非常に迷惑をお掛けしたというのが、私の正直な感想です。

カラークリヤー、硫化イブシ・ピアノ調という当社の得意とする仕上を多く入れてもらったのですが、反面エレベーター扉や電車関連のお客様は後回しになりました。今一度社員一人一人が携われる仕事を増やし、忙しい所々に入っていけるよう技量をあげてほしいと思います。特に、本社はブースが4つもあります。これをフル稼働して初めて利益が生まれます。

又、自分の仕事以外の事にももっと関心や興味を持ってほしいと思いました。私たちのような小さな会社は1人1人がマルチ（多能工）プレーヤーでなければなりません。これは、工場だけでなく営業や事務にも言えることですが、1人が2役～3役とやって初めて仕事がまわるのが当社のような零細企業だと思うのです。大きな会社であれば人もたくさんいるし、それぞれの役割や責任、仕事のやり方が全てマニュアル化していますが、小さな会社はそういう役割や責任が不明確なところが多いです。しかし、それこそが人間として成長できるスキマであります。

そこで責任感を持って様々な仕事に取り組むことが会社で信頼され、それが社会に対しても信頼されるのです。そして、最終的にはすべて自分に返ってくるのです。

言われたことだけをしていることが仕事ではありません。今、何をしないといけないか自分には何が今できるのかを絶えず自問自答しながら2020年を迎えてほしいと思います。オリンピックの年は仕事の量が減ると言われています。マクロ的に見ればそうかもしれませんが全社員の総力で「やっぱり光栄さんをお願いするのがいい」といってもらえる会社にしていってもらいたいと思います。

又、千葉白井工場も今年は4年目にして、いろいろなお客様の仕事をこなせるようになってきたと思います。ただ本社から遠い分、一人一人がより一層緊張感を持って仕事に取り組む社員の技術力をあげていろいろな仕事を一層頑張れるようになってもらいたく思います。

私自身もこれからの十年先を社員諸君の幸せとお客様からのますますのひいきを受けられるようにどうしたら良いかを冷静に考え、一つ一つだと思いますが実行に移していきたいです。

2020年も私たちにとって公私本当に良かったと言える1年にできるよう共に頑張りましょう。